

小学校第2学年 生活科 学習指導案

期 日 平成23年9月29日(木)第2校時

平成23年10月20日(木)第5校時

場 所 山鹿市立稲田小学校 2年教室

指導者 教諭 林田 美貴

1 単元名

「ぐんぐんのびろ～冬やさい名人になろう大さくせん～」 (啓林館 下)

2 単元について

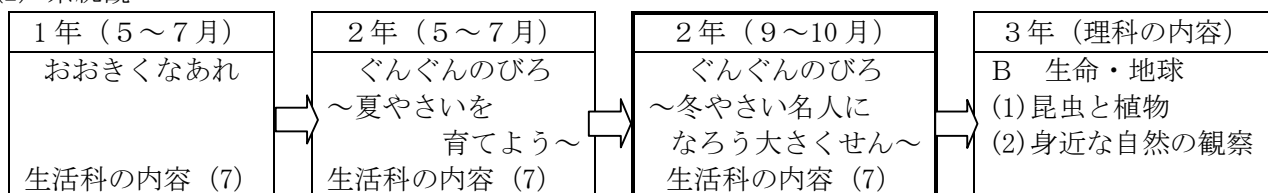
(1) 単元観

本単元は、自分が育ててみたい野菜やみんなで育てたい野菜を、自分から進んで世話をしたり収穫したりする具体的な活動や体験を通して、植物に興味・関心をもち、これらが生命をもっていることや成長していることに気付くとともに植物を大切にすることができるようになることをねらっている。

1年生の活動では主に花の栽培をし、成長の過程を観察記録し、花の開花や種とりを通して活動の充実感、生命のつながりを実感してきた。2年生の1学期の活動では、夏野菜を苗から栽培し世話をしたり観察したり収穫をしたりしてきた。

これらの経験を生かして、本単元では、冬野菜を種から育てる活動を通して夏野菜との違いに気付かせていきたい。また、二期にわたって活動を行うことで、対象と主体的に繰り返しかかわりを持たせ、成長や世話の仕方の違い、収穫方法の違い等に気付かせ、生命のつながりを実感させたり、自分の成長にも気付かせたりしていきたい。

(2) 系統観



(3) 児童観

○本学級は、男子8人、女子6人、計14人である。1学期に夏野菜の栽培を行った際には、収穫後の調理を楽しみにして、野菜の水やりを中心に進んで世話をする姿が見られた。しかし、雨天の場合にも水やりを行っていることがあり、天候や野菜の様子を見ながら世話をしていくことの大切さを学んできた。草取りに関しては、自ら進んで行う児童は少なく、教師が声をかけ、時間を決めて行うことが多かった。常時活動において、野菜のお世話を児童が進んで行うことができるような手立てが必要である。

○野菜を育てることは、ほとんどの児童が「とっても好き」、「好き」と答えており、野菜の成長の不思議さやおもしろさを実感したり、収穫した野菜を食べることに楽しみを感じたりしている。また、これまでに育てた野菜が10種類以上ある児童もいる。しかし、「あまり好きではない」と答えた児童(2人)は、世話をすることの面倒さや、野菜に対する苦手意識を感じている。

○野菜を育てるときに気をつけることとしては、水をやりすぎないようにすることに一番多く気付いており、虫に葉を食べられないようにする、草取りをする時、間違っって野菜まで取らないようにすることなども挙げられている。また、インタビュー活動に対して苦手意識を感じている児童が多いことから、スムーズに地域人材との交流ができるような手立てを考える必要がある。

○収穫した野菜は、全ての児童が調理をして食べたいと答えており、家族や友達にもプレゼントしたいと書いている児童もいた。最終的なゴールが、収穫した野菜を調理して食べることにつながるような学習過程を工夫することにより、児童の思いや願いの実現を目指したい。

○「やさい」ウェビングマップ作成においては、野菜の名前とその野菜についての五感を伴った気付きが多く書かれていた。しかし、成長や世話の仕方の違い、生命のつながりの実感、自分自身に対する気付きまでつなげている児童はいなかった。野菜を育てるという具体的な活動や体験を通しての思考がウェビングマップの中に気付きとして表れるような教師の言葉かけの工夫を行っていきたい。

(4) 指導観

- 長期の学習になるので、学習意欲を持続させるために「野菜名人への道」カードを活用し、主体的に継続して野菜と関わっていくようにする。
- 栽培活動は鹿本農業高校生と一緒にいたり、地域のお年寄りに教えてもらったり、収穫後の調理も鹿本農業高校生や地域の料理名人さんと一緒にいき、人との関わりも大切にしたい単元構成にしていく。
- 野菜の育て方は、事前に教えすぎると問題意識が育ちにくくなるので、「なぜかな？どうしよう？」といった問題に出くわしてから、必要だ、という実感をもって調べるようにさせる。
- 野菜を育てる際には、五感を通して感じ取っていく体験を大切にしていきたいとともに、自分の成長と重ねながら世話をさせることで、自分自身への気付きにつなげていくようにする。
- 野菜の成長や変化の様子や自分たちの世話の仕方を紹介し合う場としての「野菜ニュース」コーナーを設け、児童のがんばりを認め合い、活動の意欲を高めていく。
- 育てた野菜を調理する際には、安全面・衛生面での細心の注意を払う。
- 栽培活動や調理等でお世話になった方々には手紙を書くなど感謝の気持ちを伝えるようにする。

Bプロジェクト 学習評価と指導の改善の視点から	
○野菜を育てるといふ具体的な活動や体験を通して得られた気付きを次の活動へ生かすというスパイラルな学習過程を設定し、探究のプロセスを通すことで、野菜そのものに対する気付きから自分自身への気付きへと深まるようにしていく。	
○活動のまとまりごとの評価基準を設定し、具体的な児童の姿を数多くイメージしておくことで、児童の学習状況を的確に見取るようにする。	
○児童の姿を見取る際には、行動観察やカード分析などに、問いかけ、対話分析（能動的な評価）を関連付けて見取っていく。また、問いかけや対話においては、カウンセリングの手法を用いた言葉かけを積極的に活用していく。	
○B基準に達しないと見取った児童への手立てやB基準に達した児童が次に取り組む活動を計画し、個に応じた指導を行うことで評価と指導の一体化を図る。また、A基準に達している児童の姿は全体に紹介し、ほめることで、他の児童の気付きに広がりや深まりをもたせたい。	

3 単元の目標と評価規準

単元の目標	身近な野菜を育て、それらが育つ場所、変化や成長の様子に関心をもち、また、それらは生命をもっていることや成長していることに気付き、植物への親しみをもち、大切にすることができるようにする。
生活への関心・意欲・態度	①野菜の育つ場所、変化や成長の様子に関心をもち、世話をしようとしている。 ②育てている野菜に心を寄せ、繰り返し確かめようとしている。
活動や体験についての思考・表現	①育ててみたい野菜や育てた野菜をどうするか選んだり決めたりしている。 ②野菜の育つ場所、変化や成長について考え、世話の仕方を工夫している。 ③育ててきた野菜とのかかわりを振り返り、自分なりの方法で表わしている。
身近な環境や自分についての気付き	①野菜の特徴、育つ場所、変化や成長の様子に気付いている。 ②育てている野菜にあった世話の仕方があることに気付いている。 ③野菜は生命をもっていることや成長していることに気付いている。

4 指導・評価の計画（12時間取扱い 本時①6／12、本時②9／12）

次	時	学習活動	指導上の留意点 ※Bプロジェクトの視点	評価基準(B基準) (評価方法)
1	1	○「やさい名人になろう大きくせん」について話し合い、育ててみたい冬野菜を決める。	・育てた野菜をどのように食べるのか等といった見通しや楽しみをもって、育てる野菜を決めさせる。 ※学習のゴールを明確にする。	思考・表現①（発言・シート・問いかけ・対話） 夏野菜栽培の経験を振り返り、栽培する場所や時期を考えて、自分の育てたい野菜を選んでいく。

2	2	○畑の準備をし、種まきをする。	・農高生と一緒に活動になるので、分からないことを教えてもらったり、難しいところを手伝ってもらったりしながら活動できるように声かけをしていく。	関心・意欲・態度①（行動観察・つぶやき・対話） 草取り、うね立て、種まきを友だちと協力して行っている。
	3	○畑に名前をつけ、看板を作って立てる。	・児童の野菜に対する思いや願いを十分に引き出してから、看板作成をさせる。	関心・意欲・態度②（行動観察・つぶやき・対話） どんな野菜に育って欲しいかの願いを込めて、看板を作っている。
	4	○野菜の観察をしたり、野菜の世話（草取り、虫よけ、間引きなど）をしたりする。	・世話の仕方について事前に指導しすぎないように、児童が問題に出くわした時に調べて行う活動を大切にしていく。	思考・表現②（行動観察・対話） 世話の仕方を自分で考えたり、人に聞いたり、本や図鑑で調べたりしながら、野菜にあった世話をしている。
	5		※野菜の観察や世話が持続するような教師の言葉かけや、『やさい名人への道』カードを活用し、自己評価、相互評価を行う。	気付き①（カード・対話） 成長の様子や世話の仕方に気付き、それを観察カードなどに書いている。
	6 （本時①）	○これからどんな世話をしていけばよいのか考え、野菜に手紙を書く。	※これまでの学習過程を振り返り、よりよい世話の仕方を考えさせることで、今後の野菜とのかかわり方に広がりや深まりをもたせるようにする。	思考・表現②（手紙・問いかけ・対話） 野菜の願いに沿った世話の仕方を考え、手紙に書こうとしている。
3	7	○野菜の観察をしたり、野菜の世話（草取り、虫よけ、追肥など）をしたりする。	※前時に思考したことが本時の活動につながるような言葉かけを行う。 ・成長の過程に様々な世話が必要になるので、地域の詳しい人に尋ねたり、来校していただいたりしながら、できる限り児童の力で世話をさせるようにする。	思考・表現②（行動観察・対話） 自分たちで考えた世話の仕方を生かして、野菜にあった世話をしている。
	8			気付き①（カード・対話） 成長の様子や世話の仕方に気付き、それを観察カードなどに書いている。
	9 （本時②）	○収穫した冬野菜をどんな料理にして食べるか決める。	※作ってもらのではなく、自分たちが主となって調理できる料理を考えることができるような手立てを行う。	思考・表現①（発言・問いかけ・対話） 収穫した野菜を使って、どんな料理にして食べたいか考え、発言している。
	学級活動 「冬やさいパーティーの計画を立てよう」			
	10	○野菜を収穫し、冬野菜パーティの準備をする。	・鹿本農高生に教えてもらったり、手伝ってもらったりしながら、計画に沿って楽しく準備ができるようにする。	思考・表現③（行動観察・つぶやき・シート・問いかけ・対話） 野菜の収穫や冬野菜パーティーの準備を楽しんで行っている。
	11			
	学級活動 「冬やさいパーティーをひらこう」			
4	12	○「やさい名人になろう大きくせん」の振り返りをする。	※自分や友達の頑張りや成長、野菜の成長の様子に気付き、学習の振り返りができるようにする。	気付き③（発言・シート・対話） これまでの活動を振り返り、野菜の成長や変化、生命をもっていること、収穫の喜び、お世話ができた自分に気付いている。

5 本時の学習①

(1) 目標

これからどんな世話をしていけば野菜が喜ぶのかを考え、野菜に手紙を書く。

(2) 評価基準 思考・表現②（手紙・問いかけ・対話）

（B基準）野菜の願いに沿った世話の仕方を考え、手紙に書こうとしている。

（A基準の例）これまでの活動を振り返り、野菜の願いに沿った世話の仕方を考え、手紙に書いている。

(3) 展開

過程	学習活動【学習形態】	主な発問・指示等	指導上の留意点及び評価 ※Bプロジェクトの視点	備考
導入 5分	1 これまでの活動の様子や野菜の成長の様子を振り返る。	○9月の初めに種まきをしてから今日までの様子を振り返ってみましょう。	○これまで収集しておいた児童の活動の様子をデジタル映像にして見せることで、成長の様子を振り返ることができるようにする。	PC デジタル画像
	2 本時のめあてを知る。			
	どんなお世話をしたら やさいさんがよろこぶのか 考えよう			
展開 37分	3 どんなお世話をしたらよいか考える。	○これからどんなお世話をしあげると、野菜さん達は喜ぶのだろうか。	○付箋には、できるだけたくさんアイデアを書かせるようにする。	付箋
	(1) 自分なりの考えを持つ。 【個人】	○どんなことをみんなにして欲しいと願っているのだろうか。 ○まずは自分の考えを付箋に書いてみましょう。	○観察カードや「野菜ニュース」コーナーの掲示も振り返りながら考えさせる。 ○付箋をグループで類型化させ、類型化した付箋をマジックで囲ませ、いくつ考えが出たか確認をさせる。	シート
	(2) 互いの考えを交流する。 【グループ→一斉】	○考えたことをグループで出し合ひましょう。 ○グループで話し合ったことを全体に発表して下さい。	○考えを出し合う場面では、そのわけも言わせるようにする。 ※グループの代表の児童に発表させ、それぞれの考えのよさを認める言葉かけをする。	
	4 野菜さんから届いた手紙を開き、野菜さんの願いを知る。	○野菜さんから手紙が届いています。野菜作り名人の岩坂先生にその手紙を読んでもらいましょう。	○野菜の願いをメモに取りながら聞くようにさせる。	GT (鹿本農高岩坂先生)
	5 野菜さんへ返事の手紙を書く。	○野菜さんの気持ちがよく分かりましたね。返事の手紙を書きましょう。	【思考・表現③（手紙・対話）】 ＜B基準に達しない児童への手立て＞ 手紙が書けない児童に対しては、もう一度手紙を読み聞かせ、野菜が願っていることを確認する。	シート
	6 手紙の発表をする。	○書いた手紙を何人かの人に発表してもらいましょう。	※十分満足できる状況にある（A基準）と判断した児童の手紙を読ませることで世話の仕方の気づきを広め、深めるようにする。	
整理 3分	7 教師の気づきを聞く。	○これからどんなお世話をしていけばよいのか分かりましたね。	※児童の気づきをまとめ、次時の意欲につながるような言葉かけをする。	

6 本時の学習②

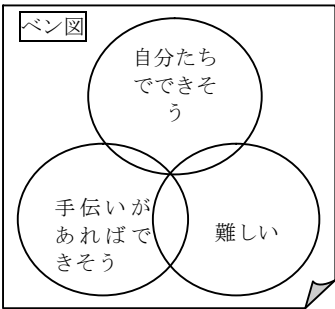
(1) 目標 収穫した冬野菜をどんな料理にして食べるか、グループで話し合い、決めることができる。

(2) 評価基準 **思考・表現①**（発言・問いかけ・対話）

（B基準）収穫した野菜を使って、どんな料理にして食べたいか考え、発言している。

（A基準の例）友だちの意見を聞き、折り合いをつけながら、自分たちでできそうな料理を考え、発言している。

(3) 展開

過程	学習活動【学習形態】	主な発問・指示等	指導上の留意点及び評価 ※Bプロジェクトの視点	備考
導入 5分	1 これまでの活動の様子や野菜の成長の様子を振り返る。	○9月の初めに種まきをしてから今日までの様子を振り返ってみましょう。	○これまで収集しておいた子どもたちの活動の様子をデジタル映像にして見せることで、野菜の成長や活動を通して得られた気持ちを振り返ることができるようにする。	PC デジタル画像
展開 37分	しゅうかくした冬やさいで どんなりょうりをするかきめよう			
	3 どんな料理にするか決める。 (1) 自分で調べた料理を付箋に書き出す。 【個人】 (2) グループで出し合い、自分たちでできそうな料理を決める。 【グループ】	○どんな料理ができるか、調べたことを付箋に書きましょう。 ○書いたことをグループで出し合いましょう。	○家庭等で調べてきた学習シートを見ながら、料理名や、どんな料理かを付箋に書き出させる。 【思考・表現①（発言・問いかけ・対話）】 ＜B基準に達しない児童への手立て＞ ※グループの話し合いに参加できない児童に対しては、教師も一緒に参加し、その児童に問いかけながら発言できるようにする。	学習シート 付箋 KJ法 シート
		○どの料理だったら、自分たちでできそうかな。ベン図を使って考えてみましょう。	※問いかけ【例】・どうしてできそうだったの？ ・どんな手伝いがほしいと思ったのかな？ ・難しいと感じたところはどんなところ？ 	ベン図 シート
	(3) 決まった料理を全体に発表する。 【一斉】	○決まった料理を他のグループの人に教えましょう。	○なぜその料理にしたのか、理由も言わせるようにする。 ※理由が十分言葉では言い表せない場合には、教師が問いかけで見取った思考を補足する。	招待状 カード
整理 3分	4 招待状を作る。	○図工の時間に作ったカードに、今日決まったことを書き加えましょう。	○図画工作科の学習と関連させながら自分が育ててきた野菜への思いも書かせるようにする。	
	5 教師の気づきを聞く。	○今日の学習を振り返って感想を発表しましょう。 ○最後に、今日の学習で先生が気付いたことを話します。	※本時の感想を聞き、共感したり、教師が本時で見取った児童の姿を全体に紹介したりするなど、次時の意欲につながるような言葉かけをする。	

